

# マックもいいけど ウィンドウズも 使ってみたい…… 悩める隊長 ウィン95に挑戦。



## 第5回 Windows95編



専用線最優先ということで、とりあえず電気関係のプラグをすべて抜いてみたのだが……

プロバイダーのアナログ専用線サービス：インターネット接続業者（プロバイダー）に、音声用の専用回線（アナログ専用線）を引いて、モデムを用いてインターネットに接続するサービス。この連載では、プロバイダーではなく、編集部で専用線で接続している。

今月は（誤植ではありません。月に一度の登場なので「コンゲツハ」）。私が探検隊長の村野です。え～、今月もお世話になります……と、いつもとは違ってかわって低姿勢なのはワケがあるのでございます（おずおず）。

先々月から始まったインターネット専用線接続探検、実は年末年始の休みが入ったおかげで手が回らず、今回も見送り状態なのでございます。

あれ以来、多忙を極める専用線救済隊長（じつはシステム管理者氏）をなだめすかしてお願いし、何度かトライしてみたのでございます。自宅では、Macからモデム経由、壁のコンセントまでを最短距離で結び、電源も冷蔵庫などは離れたコンセントから取って、ヤバそうな電気機器はプラグを引き抜き（照明器具、エアコン無しの状態を使うなんて実用性皆無し！）さらにインプレス内の回線集合装置まで疑ってみるという徹底的な調査もやりました。でも、ど～もウチの専用回線は調子悪いまま、事態は改善されておりませぬ。あ～～

ん、悲しいよぉ～。ぐやじいよ～。

NTTの方も28800bpsを保証しているわけじゃないし、やっぱ無理？と考へながら、思いついたのがプロバイダーのアナログ専用線サービス。某社に事情を聞いたところ、ほとんどは問題なく288で接続できるけど、たま～にこんなケースもあるらしい。じゃ、その場合どうするのか？知りたいでしょ？聞いてみましたヨ。すると、そういう場合は事情（NTT側は最高でも9600しか保証してない）を説明して、「この際だから、64K デジタルに行っちゃいませよ？」ということにするか、あきらめてもらうしかない……と。やっぱしねえ……。

というわけで、現在考えられる解決策は3つ。まずは、現在の回線を止めて再度3.4Kの専用線を申し込む。その2、“この際だから”64Kのデジタル専用線に変えてしまう（し、しかしお金が……）。最後の手段として、引越（し）（過激い）という案が出たわけですが、とりあえずは再申請ということで、その日程調整中という状態なのでございます。とほほ。

## Windowsマシン購入を決意!!

さて、そんなこんなで「専用線は新規手続きが終了するまで、一旦中止!」と大胆な判断をしたのは良いが、「じゃ、今月の探検は?」と青ざめる担当M女史。ついでにうろたえる隊員。

そこで私は一瞬考えた……。なんか去年の暮れくらいから、世の中、Windows95(以下「Win95」と略)とやらで騒がしい。これはいいとしても、最近、WWWを見るとブラウザ用プラグインモジュールがなくてMacじゃ楽しめないページも増えてきた。某WWW関係のレビューに「アップルが駄目になるとしたら、Win95のせいじゃなくてインターネットを楽しめる環境がそろわないことが引き金」なんていう解説もあったし……。この間、約3秒。そして私は決断したのである。

「よし、“この際”(今回、こればっか) Win95、行っちゃおう。もう、Windowsマシン、買っちゃおう!」

「え?」と怪訝な表情のM女史。頭の中に編集部予算がチラッとよぎったことは想像に難くない。

「自費だよ、自費い。自分で買っちゃいます!」と威張るわけではないが、気分は完璧に“この際”の私である。

周りのMac愛好仲間からは裏切りとも言われかねない行為ではある。が、Macを使っているばかりに、面白そうなプラグインが使えなくて悔しい思いをしている人に、Win95に乗り換えたらどうなるかを身をもって伝えるのも探検隊長の役割であ~る、**なんちて**。

というわけで、さっそく雑誌やカタログを集めまくって機種選定にかかる。一方で隊員には、WWWブラウザの代名詞となっているNetscape用プラグインのリストアップを指令する。もちろん、MacとWindowsへの対応状況もチェックだぞ。

さてWindowsマシンだが、まず問題にな

るのが大きさ。ただでさえMacがのって狭い机の上にデスクトップのマシンなんか追加できるワケがない。当然ラップトップだ。

数種類しかないMac系と比べて、Windowsのラップトップは数が多い。そこで次の判定基準として重量を考え、数台に候補を絞り込んだうえで、念のために副編N氏におうかがいを立てたのであった。

電話で候補の機種と狙いを話すと、ひと言「それってRealAudio駄目なんじゃない?」え? Windowsマシンなら何でも同じだと思っていた(おいおい)私には意外なお答え。どうやら音関係ではサウンドプラスターを備えていないと駄目らしい。

その結果、2機種が最終候補として残ったが、「編集長もこれ使ってるから」という駄目押しで松下電器産業製のラップトップ「PRONOTE mini」に決定したのであった。

## Windows vs Macintosh plug-in対決

そんなことをやっていたら、隊員から報告が届いた。

隊員であります。

まずはNetscape plug-inについて調べてみました。開発キットなどを除くと、全部で10ありました。

- ・ Shockwave
- ・ RealAudio
- ・ VDOLive
- ・ Corel's CMX Viewer
- ・ Lightning Strikes
- ・ Acrobat Amber Reader
- ・ Envoy plug-in
- ・ Formula One/NET
- ・ VR Scout VRML
- ・ WebFX

で、これがどのようにサポートされてるのか、ということですね。



ちょっとWindowsを使ってみたかっただけなのに。

Windows95: マイクロソフト製の基本ソフト。ネットワークへの接続機能を標準で持っているのが特徴。

ブラウザ用プラグインモジュール: WWWブラウザ(Netscapeなど)のウィンドウ内に、今までは直接表示できなかった音声や動画などのデータを表示させるツール。3月号P.194~参照。

サウンドプラスター: Windowsマシンの標準的な音源ボード。ほとんどのWindows用音楽ソフトは、このボード(およびその互換品)で再生できるように作られている。

Shockwave: リアルタイム動画再生

RealAudio: リアルタイム音声再生

VDOLive: リアルタイム動画再生

Corel's CMX Viewer: ベクトルフォーマット画像の表示

Lightning Strikes: 画像表示。圧縮率が高い

Acrobat Amber Reader: 電子出版用文書の表示

Envoy plug-in: 電子出版用文書の表示

Formula One/NET: スプレッドシートの表示

VR Scout VRML: VRML(3D表示)の再生

WebFX: VRML(3D表示)の再生

Software	Win95	Mac	Win3.1
Shockwave		x *1	
RealAudio			
VDOLive		x *2	
Corel's CMX Viewer	x		x
Lightning Strikes	x *3		x
Acrobat Amber Reader	x *4		x
Envoy plug-in			
Formula One/NET		x	
VR Scout VRML		x	x
WebFX		x	

注)

- \*1 もう完成してるんだけど、Mac用Netscapeに問題があってまだ出せない、とのこと
- \*2 "The Mac version is scheduled for release in the first quarter of 96."
- \*3 "The Mac plug-in will be available on January 15, 1996." もう過ぎてる....
- \*4 "Macintosh: Not Available. Expected January, 1996."



これだけ機能がそろって1.29kgとは！

Director : CD-ROMタイトルを制作するのに用いられる代表的なソフト。Directorで作ったデータをWWW上で見るためには、「アフターバーナー」でShockwaveフォーマットに変換、圧縮してから、Shockwaveで再生しなければならない。

PCカードスロット装備 : PRONOTE miniには、PCカードと呼ばれるカード型の周辺機器を接続するためのスロットが2つ用意されている。

ついでにWindows3.1も含めて表にしてみました【左の表参照】。ここでもMac弱し。【注】にあるように、やたらと言いつつ結果となりました。あとは、外部ビューアーや単体のインターネットアプリですが、これはどうでしょうか？ やや範囲が広くなりますが.....。

以上が報告の第一弾であります。

う~ん、ま、今回は外部ビューアーだと単体のアプリはいいことにしよう。それにしても、やっぱりMacは形勢不利。アカンな。しかし、Shockwaveを出しているMacromediaなんて、昔はMacのDirectorで有名だった会社でしょ？ そこがなんでWindows用から先に出すわけ？ 納得いかないな~.....と思いつつも、ココロはすでにWin95方向へ.....浮気な私。

## PRONOTE miniを買ったが...

さっそくPRONOTE miniを購入し、実際にこのマシンを手にしてみると、とにかく軽い。なんと1.29kgしかないのだ(Powerbookはアバウト3kg)。さらにこのマシン、PCカードスロット装備で拡張も大丈夫という話である。そういえば、モバイルに使うカードモデムはここにさすんだっとな、と思いつつ。

ただ、いつものとおり私の早とちりで、若干ミスった点もある。

まずは、値段重視で探していたので、Win95をインストールしてない製品を買ってしまったこと。無償アップグレードが可能なのだが、手間がかかるのは事実。

さらに、本体にフロッピードライブが内蔵されていないのでソフトのインストールには外付けドライブが必要なのだが、ノキな私は忘れてしまったのである。しかし、こういう時に利用できるものは何でも利用するのがフリーの心得。早速、編集長のド

ライブを使わせてもらおうと編集部に電話する。と副編いわく、

「あ、いいすよ。ところで、RAMって何メガ入ってます？」

おっと、そういえばRAMのことなんて考えてなかったな。

「あ、8メガ入っているみたい」

「あ、それはまずいっすね。Windowsなんだから.....メモリー、買きましょう」

「そっか~。いちおうカタログ見ると8メガと16メガがあるみたいだけど.....」

「ふつ~16メガっすね」

「ふつ~ねえ。いくらぐらいだろう？」

「隊員派遣でしょうね」(と、先読みで勝手にコマンドを進めるやつ)

## Win95をインストールしてみた

後日、ドライブを借りてWin95のインストールをやってしまうつもりで編集部に押しかけると編集長がいる(普通、編集長というのは編集部にいるはずなのだが、こんちはいないのが普通なのである)。

そこでメモリーについて聞いてみると

「16メガをプラス？ 8メガで大丈夫だよ。第一、メモリーが大きいとバッテリーが上がるよ」

そこで副編にその旨を伝えると、「あ、甘いな。今時トータル16メガはきついわ」という発言。ついでにWindowsについては一家言あるウォッチ方面の担当者までやってきて「いやあ、やっぱ24くらいないとまずいですよ」との側面援護だ。ええい、ここの編集部はどうなってるんだ。統一見解を出せ、統一見解を！

しかし、よくよく聞いてみると、「アプリって普通10本くらい動かすでしょ？」という驚愕の発言。ううむ、よく分かった。あんたらとは基準が違う。私や、楽々ネットサーフィンでできればいいの！

というわけで、現ユーザーの意見を尊重して、値段も半分の8メガRAM(約4万

円)を追加購入し、本体にセットだ。意外なことに、こいつの場合、キーボードをまくりあげるといふ変則技が必要だ(詳しくはマニュアルにあり)。

次はWin95のインストールだ。今販売されている多くの機種はインストール済みなので、多くの読者には関係ないかもしれないが、とりあえず段取りだけを書いておこう。

まずはフォーマット済みのフロッピーをたくさん用意し、既にインストールされているMS-DOSとWindows3.1のバックアップコピーを作る。私の場合、Windows3.1なんてさわる気もないのでWindows3.1の一枚目だけのバックアップを作る。なんで1枚目だけ必要かという、Win95をアップグレードでインストールする場合、正規ユーザー認証のために、Windows3.1のディスクの1枚目のものが要するというわけ。

ディスクを取っかえ引っかえすること約40分。結果は20枚+Windows3.1のディスク1枚というディスクの山となった。

さて、次はWin95のインストールだ。

普通なら、何枚ものディスクを使ってインストールすることになるが、環境をちょっと変えようすると、やれ何枚目のディスクを入れるのということになって、エライ面倒だとこのことでCD-ROMを使うことにした。

ただPRONOTEの場合、外付けCD-ROMドライブが必要で、しかも普通のドライブはSCSIタイプだから、PCカードスロットにさすSCSIカードが必要……。そんなものないぞ、と思ったら、そこはよくしたもので編集部がパラレルポート経由で接続できるCD-ROM機があるという。さすがあ！

聞くところによると、ハードやドライバーの種類によってはWin95の組み込みに苦労する人もあるというが、ラッキーなことにPRONOTE miniの場合は、プロンプトに合わせてOKしているうちに、インストールはすんわり終わってしまった。ま、途中で何のつもりか、自社製品のコマーシャル

が流れたり、「今がユーザー登録のチャンスです」なんつー余計なお世話メッセージが出るのには閉口したが、Windows派の面々に言わせると「芸がないよりマシ」だとか「親切でいいじゃない」である。う～ん、そんな具合に洗脳されていたのかWindowsユーザーは……おそろべしMS！

ま、これで一件落着ならいっかー……とは思ったが、ここで安心してCD-ROMを外してしまつてはまずい。これから本番なのだ。

## ④ インターネットに接続してみた

第一ステップは、いよいよWin95のダイアルアップ接続の設定だ。(詳しくは先月号の特集を参照。このコーナーの最終ページにも簡単な説明あり)。

続いて第二ステップは、プロトコルの追加。これも最後にまとめておこう。

まあ、Macの設定画面を見慣れている目には「コントロールパネル」と言われても違和感があるし、相変わらずアイコンも唾っばいな～という感じだが、これは美意識の問題になるので追究するのはよしておこう。

第三ステップは、プロバイダーへの接続第一段階の「モデムの設定」。なんでもこのあたりから、副編(私に言わせればMS洗脳済みの人)によると「ウィザードっていう賢い機能があって、これが面倒なことをやってくれる」らしい。おっと、そのウィザードくんをお願いする前に、利用するモデムを用意してケーブルを接続し、電源をオンしておかなきゃ。

詳細はこのコーナーの最終ページに書いてあるが、びっくりしたのは⑤(P219モデムの設定)である。“賢い”モデムウィザードが「検出には数分かかります」なんて言いながら、自分の接続しているモデムを調べるためにWin95のCD-ROMがびゅんびゅん回ってくれる。って、おいおい、これって全世界のモデムメーカーのデータを持ってっ



インストールにこれだけのフロッピーを使うなんて、やっぱりCD-ROMを使おうっと。



あなたのまわりにもMSの信者が……。

バックアップ：ハードディスク内のソフトやデータを予備としてフロッピーなどに保存すること。

パラレルポート経由で接続できるCD-ROM：パラレルポートは一般的にはプリンターを接続するのに用いられるが、ここにつなげられるCD-ROMも存在する。

ウィザード：Windows95の各種設定に必要な項目を順番に問い合わせてくる仕組みのこと。本来の意味は「魔術師」だが、もちろん魔法で設定してくれるわけではない。



ダウンロードに20分近くかかるときもある。



Mac vs Windows。この勝負の決着はいつに？

ftp：インターネット上でファイルをやりとりするのに用いられるソフト。初心者にはWin95標準のftpは難しいので、CuteFTP(本誌CD-ROMに収録)などのツールを使ったほうがよいでしょう。

OpenTransport：Macintoshでインターネットに接続するためのソフト。

てこと？ とすると、MSがいちいち全世界のモデムメーカーのデータを調べて入れてるか(そんなわきゃないよね)それとも「お願いしま〜す。うちで新しいモデム作ったんで、リストに入れてくださあい」って連絡してるわけだ.....ううむ。で、最新のモデムなんぞ買って、「このモデムは不明です」なんて言われた場合はどうなるわけ？なんか、かなりヤバイものを感じるのは私だけ？

確かに全部のモデムのリストを持っているのはいいとしても、これのどこが“賢い”わけえ？と思う私であるが、ここまで来たら最後まで行かなきゃ意味がない。考えてないで、次い！

最終段階は、プロバイダーへの接続のためのパスワードなどの登録だが、再起動時に「Windowのパスワードを入れてください」と言われるので、自分の名前と適当なパスワードを入れる(しかし、これ以降、マシンを立ちあげるたびパスワードを要求されるとは思わなかったぞ)。

### 最強のラップトップ マシンが完成！

これでプロバイダーへの接続は確保された。もしここでNetscapeナビゲーターが手元になければ、MS-DOSプロンプトから「ftp」を起動し、「ftp://ftp.riken.go.jp/pub/WWW/netscape/2.0beta6/」にアクセスし、ダウンロードする。Netscape用のプラグインモジュールはヘルパーアプリケーション類のリンクを集めたページ([http://home.netscape.com/comprod/products/navigator/version\\_2.0/plugins/index.html](http://home.netscape.com/comprod/products/navigator/version_2.0/plugins/index.html))からダウンロードだ。

こうやってもってきたファイルは基本的に、ダブルクリックすれば自動的に展開し、適切な場所に入ってくれるのでOK。しかし文章では数行程度で書いてしまうこの作業も、実際にはずっと回線をつなぎっぱな

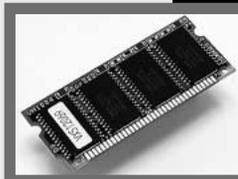
して1本当たり数分~20分程度。コーヒーなどを飲みながら、ひらすら待つしかない。

とりあえず、現在WWWで最も派手なデモで楽しめる(しかもMacでは利用不可能な)「Shockwave」を試してみる。と、確かに動く.....が、なんか色が変わ。う~む、これだから液晶は駄目か.....と思ったが、ディスプレイの色数設定をちゃんとやってなかったことに気がついて「256色」に変更すると大正解。これでついに最強のラップトップWWWサーフィン・マシンの完成.....ふ~、疲れたあ。

さて、Win95のセットアップやら、ちょっと使ってみた感じだが、Mac育ちの私としては、正直言って、ひさしぶりに頭にきた。こんなに面倒な設定が“賢い”だの「ウィザード」だのと言われる理由がよく分からん。もちょっと簡単にできないもんなの？シェアが大きいなら、それくらいの責任は感じて欲しいね、Windowsも。

これに比べればMacのほうがまだマシだったような気がする。ま、ちょっと身びいきがないとは言えないが、それくらいMacってかわいかったような気がする。けど、これにゃ、かわいげなんてないぞ。やっぱ、どっちにしても設定をやらされるんだったら、マシンにはキュートな振舞ってのが必要だよな、こうなると。

けど、Macも最新機種では「Open Transport」あたりでバグが出てると言うし.....あ~あ、Macがもつとすやかに育ってくれたらよかったのになあ。こんなことじゃ、オシャレなインターネットにはほど遠いな~、と思いながら今回の探検を終わったのであった。



今回はPRNOTEmini用の拡張メモリーとして(株)ビッグサイエンスの「VEM8MCF11」を使用。ほとんどのノートパソコンでは、専用の拡張メモリーがあるので、メモリーを買うとき機種を確認しよう。



PRNOTEminiの場合、拡張メモリーの差し込み口はキーボードの下にある。



Windows95 インストール時の環境。CD-ROM、モデム、フロッピードライブ、電源アダプターがつながっている。

### ダイヤルアップ接続の設定

- 1 Win95の「スタートメニュー」から「コントロールパネル」を開く
- 2 その中から「アプリケーションの追加と削除」をクリックする
- 3 「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」の上のほうにある「Windows ファイル」をクリックする
- 4 「ファイルの種類」の中のスライドバーを動かして「通信」を探し、ダブルクリックする
- 5 「通信」の中のスライドバーを動かして「ダイヤルアップネットワーク」を探し、左にあるチェックボックスをチェックしたら「OK」ボタンを押す
- 6 前の画面に戻るなので、ここでも「OK」を押して「コントロールパネル」画面に戻る

### モデムの設定

- 1 デスクトップにある「マイコンピュータ」を開いて「ダイヤルアップネットワーク」のアイコンを開き、その中の新しい「接続」をクリックする
- 2 「モデムの電源が入っているか」「モデムを利用していたアプリケーションが全部終了しているか」の確認を求められたあとで、準備OKなら「次へ」をクリックする
- 3 「検出には数分かかります」というプロンプトが出たあと、数分で「通信ポート上に検出されたモデム」として、今回採用したモデムの名前が出るので、「次へ」をクリックすると「モデムは正常にセットアップされました」というプロンプトが出る
- 4 OKであれば「完了」をクリック
- 5 再び「新しい接続」アイコンをクリックし、出てくる「接続名」に契約しているプロバイダー名を入力する(今回は「Tokyo」と入力)。「モデムの選択」の欄には先ほどのモデム名が入っているから、「次へ」を押して先に進む
- 6 「相手先の電話番号を指定してください」と言われるので、アクセスポイントの番号を入力し、下の「国番号」のスライドバーを動かして「日本(81)」を選択したあと、「次へ」をクリックすると「新しいダイヤルアップネットワーク接続が次の名前で作成されました」として、先ほど入れた「Tokyo」が出ているはず

### プロバイダーの設定

- 1 再起動したWin95のデスクトップの「マイコンピュータ」を開き、「ダイヤルアップネットワーク」のアイコンを開く。先ほど作成した「Tokyo」のアイコンがあるはずなので、これをクリックしておいてから、「ファイル」メニューから「プロパティ」を選択する
- 2 「国番号」「市外局番」「電話番号」と、先ほど入力したものが出てくるが、ここでは下のほうにある「サーバーの種類」ボタンを押す
- 3 「サーバーの種類」の中の「使用できるネットワーク」の「TCP/IP」だけをチェックし、次に「TCP/IP設定」のボタンを押す
- 4 「TCP/IP」設定の画面では「サーバーが割り当てたアドレス」のボタンをクリックし、「ネームサーバーアドレスを指定」をクリックしたあとに「プライマリDNS」にプロバイダーからもらったサーバーアドレスの数字を入れる。プロバイダーによってはこの数字を2つ知らせてくる場合もあるので、その場合は「セカンダリDNS」に同じく数字を入れる。終わったら「OK」ボタンを押して「ダイヤルアップネットワーク」の画面に戻る
- 5 「Tokyo」のアイコンをダブルクリックすると「接続」という画面が現れ、「ユーザー名」や「パスワード」の設定画面が現れる。ここにプロバイダーから送られてきた文字などを入れ、下の電話番号があらかじめ設定した数字であれば「接続」ボタンを押す
- 6 ダイヤルが始まり「Tokyoに接続中」という画面の中で「状況：ダイヤル中」～「状況：ネットワークにログオン中」と進んで、うまく進めば「ダイヤルアップネットワーク(Tokyo)」という画面に変わり、「28800bpsで接続」などというプロンプトが出るはず。これで接続OK



### プロトコルの設定

- 1 コントロールパネルの中から「ネットワーク」をクリックする
- 2 「ネットワーク」の下のほうにある「追加(A)」ボタンをクリックする
- 3 「ネットワーク構成ファイルの追加」の中から「プロトコル」を選択し、右側にある「追加(A)」ボタンをクリックする
- 4 「ネットワークプロトコルの選択」には2つのボックスが出るが、左側の「製造元」の中から「Microsoft」を選び、右の「ネットワークプロトコル」の中から「TCP/IP」を選択したら、あとは「OK」ボタンをクリックする



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)